AYSA西部部会プレゼン

私から見た
源氏物語の全体像

光源氏

紫式部

2024.9.26

AYSA西部支部　MRN

はじめに

・高校時代の古文・・・1年で徒然草、2年で枕草子、3年で源氏物語
　1、2年は何とか理解できたが、3年は全くダメだった
・それから60年が経過、今日に至る
・源氏物語がどんなものか元気なうちに掴んでおきたいと思っていた
・折しも今年はNHK大河ドラマで「光る君へ」が放映される
　　⇒　今年こそ絶好の機会！　と考えた

めざす到達レベル

・物語の全体像をつかむ　（古文解釈は二の次）
・平安時代の貴族社会はどんなものだったのかを知る
・作者からのメッセージは何だったのかを考えてみる

引用・参考文献：

① Wikipediaから　源氏物語関連事項活用
② 瀬戸内寂聴「源氏物語」、田辺聖子「源氏たまゆら」
③ NHK Eテレ　光源氏が愛した女君たち（藤井由紀子教授）

プレゼン順序

- ① 源氏物語とは
- ② 物語の構成
  ②－１ 第1部 ②－２ 第2部 ②－３ 第3部
- ③ 作者 紫式部のこと
- ④ 私の素朴な疑問
- ⑤ 光源氏が愛した八人の女君たち
- ⑥ 瀬戸内寂聴が絶賛する二つの帖
- ⑦ 終わりに

- ⑧ 補習　光源氏関係人物
- ⑨ 人物関係図　第 1 部・第 2 部
- ⑩ 人物関係図　第 3 部（宇治10 帖)

① 源氏物語とは

- 平安時代、宮廷・貴族のエンタメとして 紫式部によって書かれた長編王朝小説 主人公は光源氏

  （70～80年にわたる時の流れ、登場人物 500人）

  NHK大河では・・・

  幼馴染で恋愛関係（子までなした）にある道長の要請によって紫式部が描いたという設定

- 54帖から成る

  第１部（１～33帖）源氏誕生から栄華期（1～39歳）

  第２部（34～41帖）源氏の晩年期　　（40～56歳没）

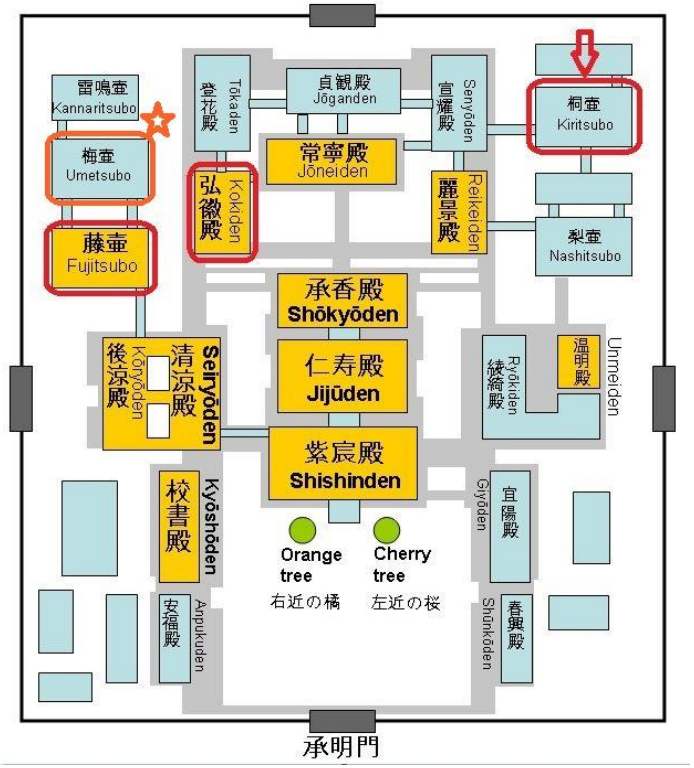
  第３部（42～54帖）源氏没後８年源氏の子や孫が活躍

② 物語の構成

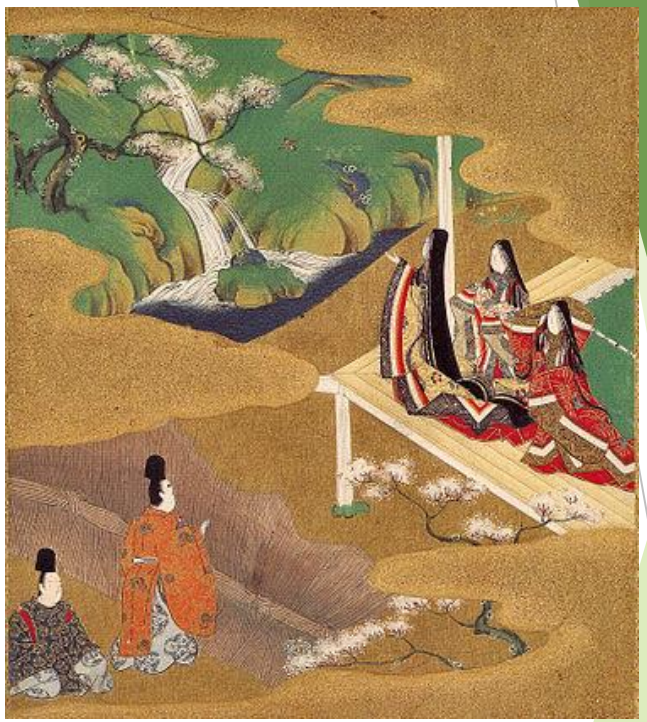
②－１ 第1部

光源氏の誕生から栄華を求めながら愛を遍歴する栄華期が描かれている

- ①桐壺　②帚木　③空蝉　④夕顔　⑤若紫
- ⑥末摘花　⑦紅葉賀　⑧花宴　⑨葵　⑩賢木
- ⑪花散里　⑫須磨　⑬明石　⑭澪標　⑮蓬生
- ⑯関谷　⑰絵合　⑱松風　⑲薄雲　⑳朝顔
- ㉑少女　㉒玉鬘　㉓初音　㉔胡蝶　㉕蛍
- ㉖常夏　㉗篝火　㉘野分　㉙行幸　㉚藤袴
- ㉛真紀柱　㉜梅枝　㉝藤裏葉



第1帖 宮中の桐壺、藤壺の位置



第5帖 若紫を垣間見る光源氏

② 物語の構成
②－２ 第２部

光源氏の晩年の物語

この帖に至って初めて心底から人生の苦悩を味わう

- ㉞若菜上　㉟若菜下　㊱柏木　㊲横笛
- ㊳鈴虫　㊴夕霧　㊵御法　㊶幻
- ○雲隠れ(タイトルのみ)

蹴鞠に興ずる柏木、御簾の
奥にいる女三の宮

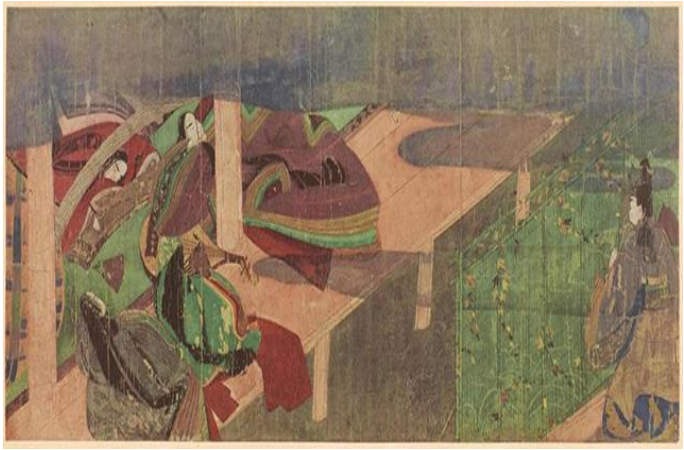
② 物語の構成
②－３ 第３部(宇治10帖)

- 一部、二部と違って登場人物は皆、歴史の中心となる大物でもなく物語の終わり方も悲劇的、 現代にも通ずる悲恋物語(官能小説？）（田辺聖子訳では雰囲気が変わる）(宇治十帖は作者が違うとの説ある・・真偽のほどは？）

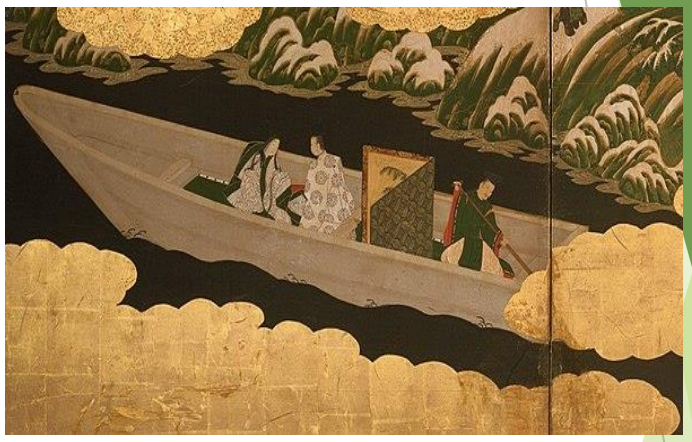
- 光源氏死後8年の空白があり、そのあとその子(薫)や孫(匂宮)が繰り広げるドラマが描かれている

- 宇治に隠遁した源氏の異腹の弟八の宮(桐壺帝の第八皇子)の三人の姫君（大君、中君、浮橋・浮橋は 異母妹）が登場しそれに薫、匂宮が絡む。

㊷匂兵部卿　㊸紅梅　㊹竹河　㊺橋姫　㊻椎本
㊼総角　㊽早蕨　㊾宿木　㊿東屋　51浮舟
52 蜻蛉　53 手習　54 夢浮橋



薫と大君・中君の出会い



51帖 浮舟
浮舟が匂宮に連れ出されて
宇治川対岸の隠家に向かう

③ 作者 紫式部のこと

- 源氏物語の作者、歌人、女官、（教養：和歌、書道、音楽）

- 生没年：970 ～978年に生まれ1019年まで存命、没年不明
（父は藤原為時、官位は正五位下、下級武士ながら花山天皇に漢学を教えた漢詩人・歌人）

- 紫式部は20代半ば過ぎに又従兄妹で親子ほども年の差がある藤原宣孝と結婚、一女（藤原賢子）をもうける。結婚３年程で夫死去 （NHKドラマでは賢子は道長との間の子との設定）

- その後「源氏物語」を書き始めその評判を聞いた藤原道長に召し出されその娘で一条天皇の中宮、彰子に仕え、その間に「源氏物語」を完成させる

④ 私の素朴な疑問

- １．優雅な宮廷社会の、奔放な恋愛、赤裸々な権力闘争が描写・・・これだけ暴かれたら発刊停止などの圧力がかかっても、と思うのだがそれがない　なぜ？

- ２．古典を読む意義・・・風俗や文化などの現代との違いを知ることといわれている　それらとは？
  また人間の心理など普遍的に変らないものがあるとも思われる　それらとは？

- ３．源氏物語には紫式部の人生観、哲学、信念があると思われる　それらとは？

⑤光源氏が愛した八人の女君たち - 1

1. 藤壺の宮

　源氏の父・桐壺帝のもとに入内しのちに中宮となる
源氏にとって母、桐壺更衣の面影をいたく感じる
源氏に恋い慕われ密通し懐妊してしまう
（生まれた子は後の冷泉帝）
不義の秘密を知らない（？）帝は男児誕生の喜ぶが、
藤壺の苦悩はつのるばかり(源氏は？）桐壺帝崩御の後
藤壺出家する

２. 紫の上

　10歳（幼名 若紫）で源氏に見初められ二条院に引き取られる。やがて源氏にとってかけがえのない存在に。
藤壺の姪 実子なし

⑤ 光源氏が愛した八人の女君たち - 2

3.　葵の上

　源氏の最初の正室。愛のない結婚生活の末、10年目にして懐妊し男児誕生（夕霧）　産後に葵の上は亡くなる六条御息所の生霊に苦しむ、結婚当時源氏12歳、葵16歳

４．六条御息所

　桐壷帝の弟(東宮)の妃。未亡人となりそのあと源氏と密通する。葵祭りでの葵上との車争い事件でプライドを失う。そのあと嫉妬に狂い生霊となって葵の上を襲う

⑤ 光源氏が愛した女君たち - 3

５．朧月夜の君

源氏の兄・朱雀帝の女御として入内予定だったのに源氏と一夜を過ごしてしまう

6．朝顔の君

桐壺帝の弟の娘。源氏を慕いながらも求愛を最後まで拒み通した唯一の女性

（拒否されると益々その気になるのが光源氏の性癖）

⑤ 光源氏が愛した女君たち−４

７．明石の君

播磨の前国司・明石入道の娘。朧月夜の事件で流罪になるかもしれぬことを察して須磨へ逃れそのあと明石に移動してきた源氏とむすばれる。（明石の入道の思惑）

明石の君は光源氏との身分の違いを謙虚に受けとめている

その娘（明石の姫君）は、源氏が都で復権後、やがて中宮となる（その中宮の子が宇治十帖で登場する匂宮）

8.　女三の宮

朱雀院の娘（光源氏の姪）、14～15歳で源氏の二番目の正妻となる。源氏が紫の上の看病をしている隙に柏木(頭の中将の子)と密通、薫を産む。後に出家する。源氏は因果応報を悟る。柏木は罪の意識がもとで他界す

⑥ 瀬戸内寂聴が絶賛する二つの帖-1

１．若菜の上・下
（男女の道ならぬ物語、悲劇のクライマックス）

- 朱雀院の娘、女三宮が源氏に降嫁し紫の上は嘗てない動揺に襲われ苦悩する
- 柏木（光源氏の友、頭の中将の子）が女三宮を垣間見て恋慕の情を募らせる
- 紫の上が病床に伏し源氏は看病の日々を送る。その隙に女三宮のもとに忍び込む
- その後女三宮は柏木の子（薫）を産み出家してしまう
- その事実が発覚、柏木はおのれの非を悟り重病となり死去する

⑥ 瀬戸内寂聴が絶賛する二つの帖−２

１． 宇治十帖

- 光源氏の死から8年の時は流れ、子(薫)や孫(匂宮)の時代となる
- 宇治に隠棲した源氏の異腹の弟、八の宮（桐壺帝の第八皇子）の三人の姫君（大君、中君、浮舟）と薫、匂宮との複雑に絡み合った恋愛劇が展開される
- 特に最終54帖は三角関係のもつれから浮舟は入水するも僧都に助けられ尼になる
- その浮舟になおも思いを寄せる薫の攻勢
- しかし浮舟の出家の固い意志が淡々と描かれている

⑦ 終わりに

- 千年前の長編宮廷小説「源氏物語」、理性を超えた人間の弱みや性(サガ)を、エンタメ風に肯定的に描きあげた紫式部の心の奥深さ・偉大さに感銘しました。

- 生きとし生けるものが求めてやまぬ欲求
  ① 生きる欲求（愛欲、金欲、出世欲）
  ② 参加の欲求（独占欲、支配欲）
  ③ 自己実現の欲求（成就欲）

  は人間が存在する限り永遠に続くものと考えます

ご清聴ありがとうございました。

⑧ 補習　光源氏関係人物

- 親兄弟

  桐壺帝、桐壺更衣、朱雀帝、八の宮

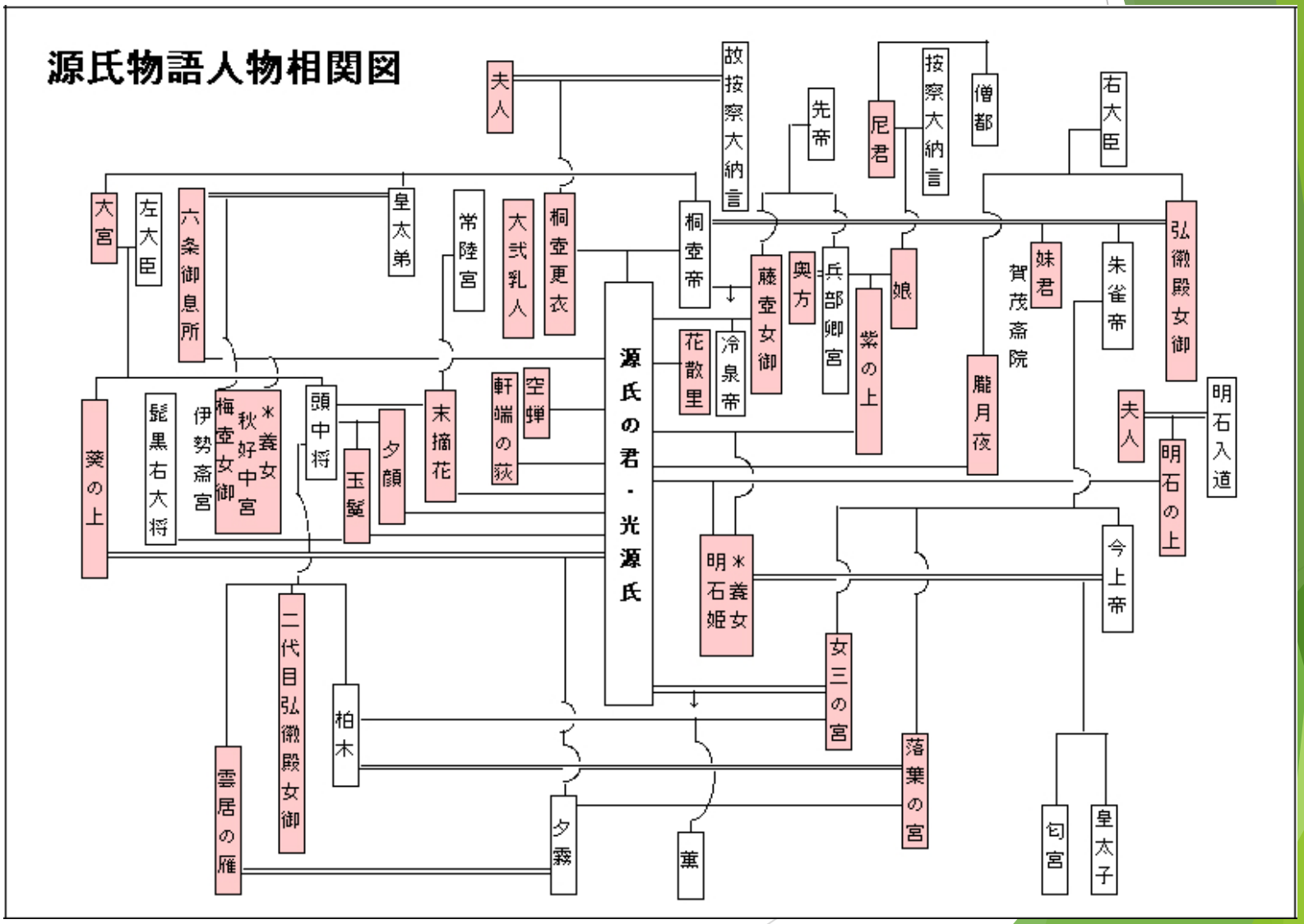
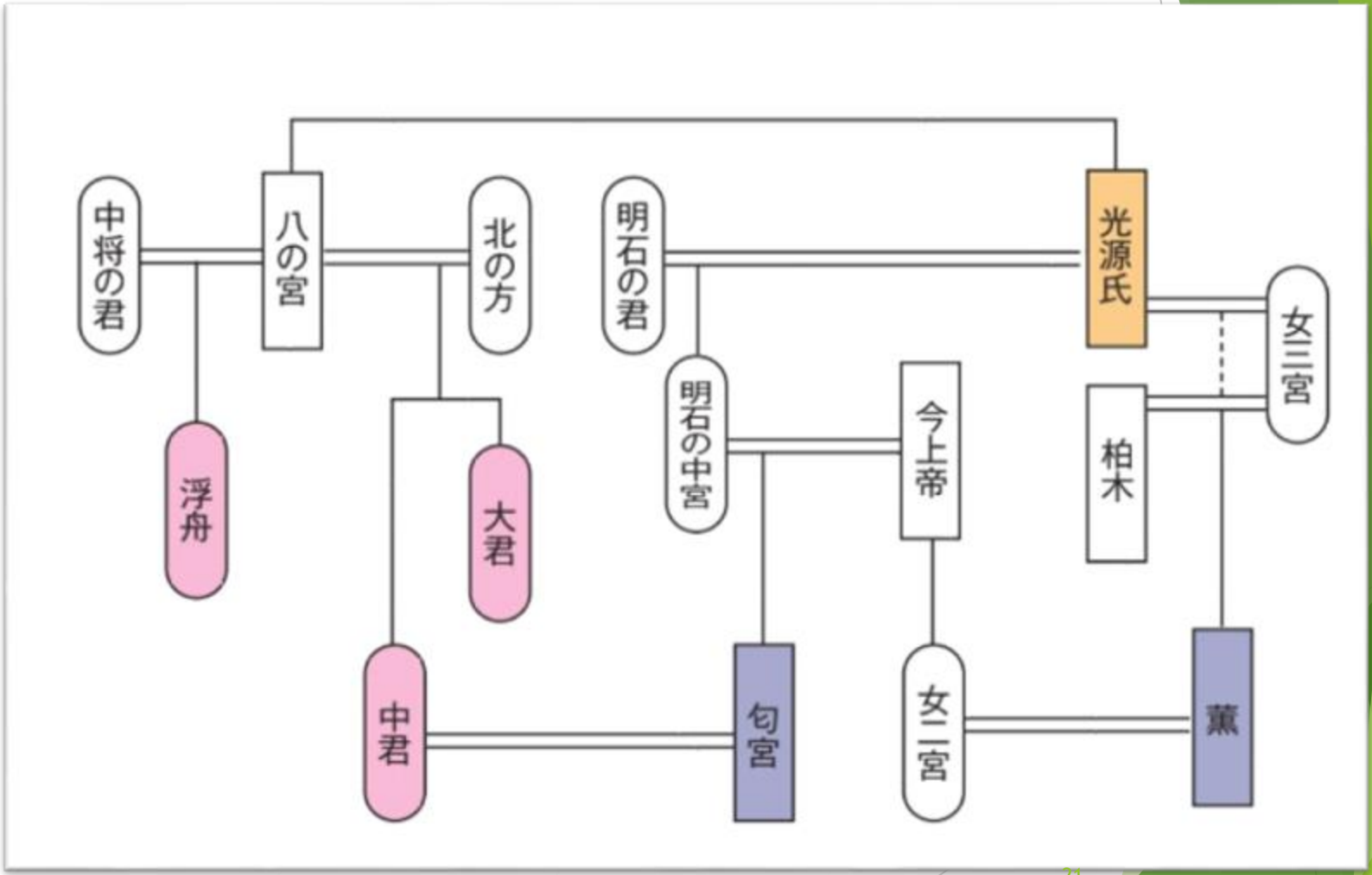
- 女君

  藤壺中宮、葵の上、紫の上、明石の君、花散里、女三宮、空蝉、軒端荻、夕顔、末摘花、源典侍、朧月夜、朝顔の姫君、六条御息所、筑紫の五節

- 子女

  冷泉帝、夕霧、明石中宮、薫、匂宮（孫）

⑥ 一部・二部人物相関図


源氏物語人物相関図
夫人
故按察大納言
先帝
尼君
按察大納言
僧都
右大臣
大宮
左大臣
六条御息所
皇太弟
常陸宮
大弐乳人
桐壺更衣
桐壺帝
藤壺女御
奥方
兵部卿宮
娘
賀茂斎院
妹君
朱雀帝
弘徽殿女御
葵の上
髭黒右大将
伊勢斎宮
梅壺女御
秋好中宮
＊養女
頭中将
玉鬘
夕顔
末摘花
軒端の荻
空蝉
源氏の君・光源氏
花散里
冷泉帝
紫の上
朧月夜
夫人
明石入道
明石の上
明石姫
＊養女
今上帝
女三の宮
二代目弘徽殿女御
柏木
雲居の雁
夕霧
薫
落葉の宮
匂宮
皇太子

⑦宇治十帖人物相関図